

# 情報リテラシ第二(3b)

担当: 増原英彦 TA: Jizhe Chenxin, Lubis Luthfan Anshar, 小串 智希

## 第6週

- プレゼンテーション (発表)
- 科学技術文書(課題提出方法)
- 授業アンケート

T

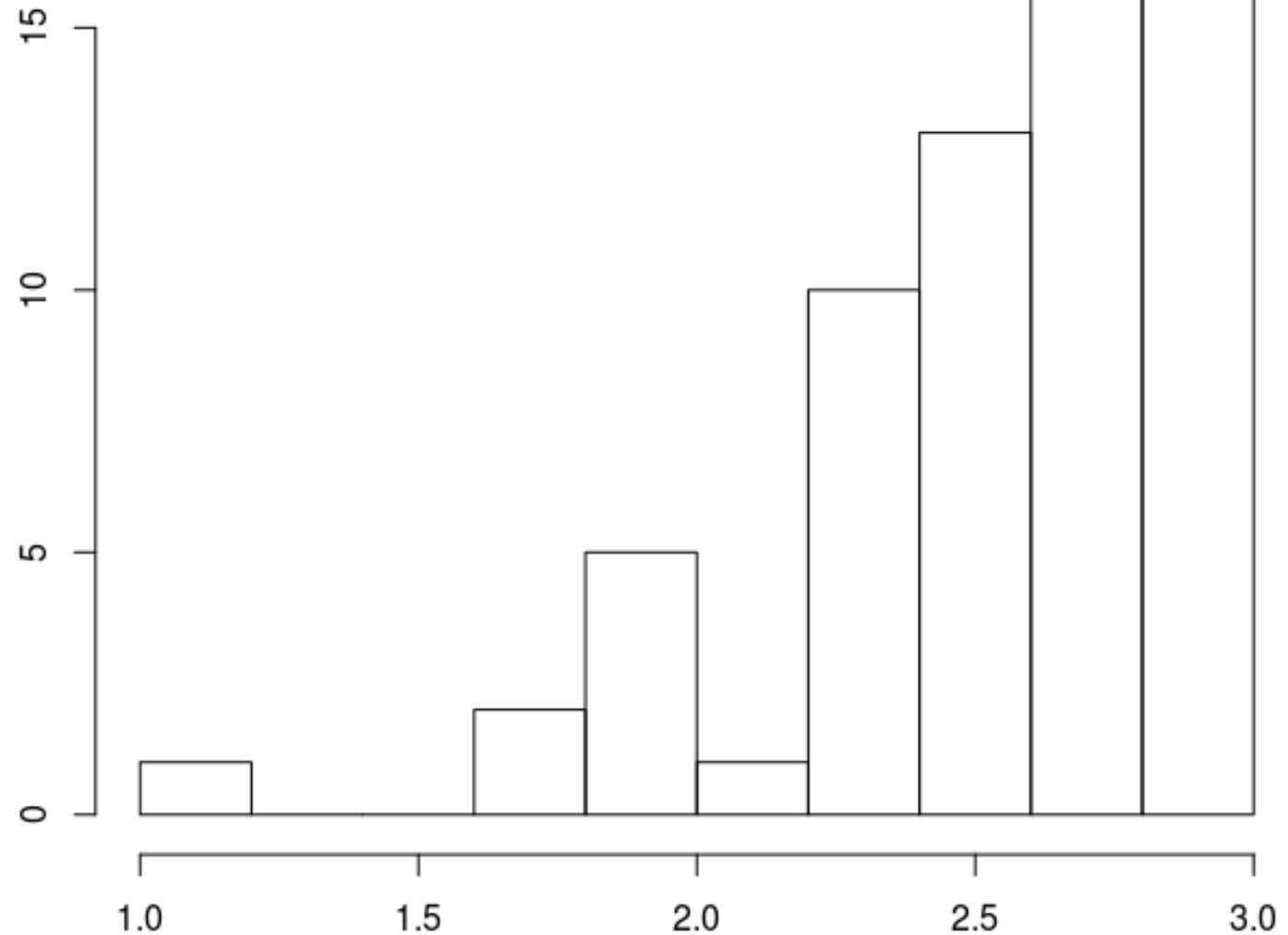


REC



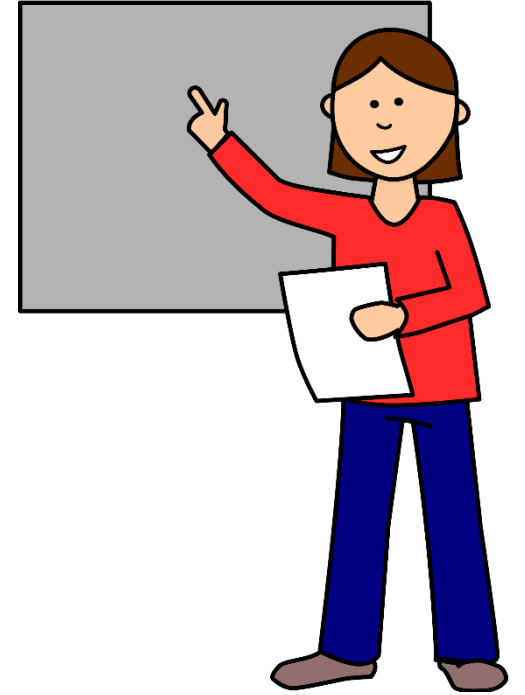
# 逆評価の分布

- 横軸  
とても役に立った=3,  
少し役に立った=2,  
あまり役に立たなかった=1  
(その他は含めず)
- 批評した人ごとの  
平均点の分布
- 結論: 役に立ったよ!
- 補足
  - 成績評価には使いません
  - 入力間違いもあった



# プレゼンテーションに求められるもの

- 丁度よい長さ
  - (発表時間は自分で決められない)
- 自信のある態度
  - 聴衆を見て話す
- 自分の言葉で



# 質問をしよう!

## • 質問をすることの良い点

- (する人) 発表が頭に入りやすくなる
- (発表者) 聴いてくれたことが分かる
- (発表者) どこが分かりにくかったかが分かる
- (発表者) どこまで伝わったかが分かる



# 質問をしよう!



## 質問するとき

- おバカな質問をしよう
  - 知らぬは恥ですらない
  - あなたが聞きたいことは、他の人も聞きたがっている
- とりあえず口に出してみよう
  - 整理して質問するなんて無理だから
  - 一度言ってから、言い直せばよい

## 質問されたときの対応

- 質問を最後まで聴いてから答える
- 最初に聞かれたことに短刀直入に答え、それから言い訳をする
- 質問自体が分からないとき:  
聞き返す
  - 「(ここまで)は分かりましたが、そのあとが分かりません」
  - 「もしかしてこういう質問ですか?」

# プレゼンテーション

授業ページ:  
グループ分け表

- グループに分かれる(約10名/グループ)

- 出欠確認

- 発表順に1名ずつ

- 3分間で発表

- 質問(1名) (分からなかった言葉、もっと知りたい根拠や背景、自分の意見など何でも)

- 評価のためのメモ(1分間)

- 感想

1人1回必ず  
質問すること

チャット:  
入力フォームURL

お疲れ様!  
全グループが終わるまで  
少し休憩です

評価フォームは一度提出しても  
後から追加・修正できます  
(入力内容が消えてなくならないよう)



# LaTeXの課題(再掲)

- 次のどちらかを選ぶ
  - 基本課題: プレゼンテーションで発表する内容をLaTeXを用いてレポートとしても作成する。その中でLaTeXの基本機能を一通り使用する。
  - 挑戦的課題: 学術論文を完成させる。所々に「穴」のあいたLaTeXファイルを配布するので、完成版と同じ結果になるように穴を埋める。(共通課題)
- 期限: 8月9日
- 提出方法: Overleafによる共有で行う

# 提出方法

- Overleafのプロジェクト名を「学籍番号 基本課題」あるいは「学籍番号 挑戦的課題」に変更する (例えば 20B98765 基本課題)
- Share Project画面の  
Share with your collaborators欄に  
InfoLit@prg.is.titech.ac.jp  
(タイプミス注意)と書きShareを押す

※ プロジェクト名に学籍番号がないと、教員側は誰の提出物か全く分からない

# LaTeXの課題: 基本課題

- プレゼンテーションで発表する内容をLaTeXによるレポートとして作成する
- 条件
  - レポート内で以下の機能を使用する:  
節・図・表・数式・節番号の参照・参考文献と引用  
(※レポート内容と関係のないものでもよい)

# LaTeXの課題: 挑戦的課題

1. WEBブラウザで <https://www.overleaf.com/> を開き(もしログインしていけば)右上の Log In を押してログインする
2. WEBブラウザで <https://www.overleaf.com/read/wkppcwhxhhmk> を開く
3. Menu > Copy Project でコピーする。新しいプロジェクト名は「学籍番号 挑戦的課題」とする(例えば「20B54321 挑戦的課題」)
4. model.pdf が完成したときの様子である。これと同じ結果になるように main.tex を編集せよ。hints.pdfにヒントがある
5. 図は[授業WEBページに用意した図のサンプル](#)を使ってよい

# 授業アンケート

- チャットに書いたURLから今、回答して下さい
- 自由記入欄に必ず何か書いて下さい
  - 何も書くことがない場合は「何もない」と書いて構わないので...
  - 自由記入欄が一番授業改善に役立ちます
  - ですが、意見分布を良く反映していないと逆に偏向してしまいます
  - なので、全員が何か書いてくれることが重要です

# 次回: 予備

- ~~• 出席の義務はありません~~
- 質問に答えます
- 興味のある人向けにいくつか
  - LaTeXの高度な機能: マクロ
  - コンピュータサイエンス第一、第二の紹介
  - その他 (その場の希望に応じて)

7月29日に  
できなかった  
ことを補足します

## 質問などへの回答

基本的課題と挑戦的課題では  
最高点は違うのでしょうか

全く同じじゃやる気が出ない人も  
いると思うので挑戦的課題には  
ボーナス点を少し与えるつもりです

# 質問などへの回答

最後の授業は、第3Qのコンピュータサイエンス第一で何をやるのか紹介してほしいです

はい!

Latexの挿入した図のサイズはどのように決まっているのですか？

挿入される図の大きさです

(例えばPDF形式の図は紙に印刷したときの大きさが指定されています。JPEGやPNGは1ピクセルが約0.353ミリとして扱われます)



# 質問などへの回答

授業の録画ってどこかで見られるのでしょうか？

事情があって、ZOOM 会議にリアルタイムで出席できない場合、授業時間中に接続上の問題などが起きた場合のために録画していますが、復習のためには提供していません

# 質問などへの回答

(初回の)課題のような調べ学習系の課題の場合、自分の意見を述べたり、何か考察するような課題でないため、どうしても引用が多くなってしまい、自分の文章が主になるというのが難しいと思うのですが

参考とする文章を読んだ後でも、その文章を見ずに自分で文章を書けばそれは「自分の文章」です。実際にやってみて下さい。よっぽど短い文章でなければ、元の文章を書き写したものと違うものになっているはずですよ。(「何かを調べてこい」という課題は、単に調べて情報を見つけるのではなく、見つけた情報を理解することを期待しているはずですよ。なので、調べた上での「自分の頭に入ったこと」を元に書けばよいわけですよ)

# 質問などへの回答

スライドの制作において、テキストベースのスライドを作成するとき、どこまでをスライドに表記し、どこからはスピーカーノートに移したほうがいいのかの判断が苦手なつい図表だけのスライドだけにしてしまうのですがなにか良い解決策などがありますか？

(研究発表に使うスライドだと思って答えます)  
発表スライドは喋りによる説明を補助するものなので、(極論を言えば)上手に喋れるのであれば無くてもよいものです。ただ、我々はすごく喋るのが上手とは言えないので、要点を文字として見せておくことで聴衆を助けているわけです。その要点をどうやって選ぶかはトレーニングしかないのですが、「1分間喋った内容を1行の文×3にまとめる」くらいで要約するような考え方でやってみてはどうでしょうか

# 質問などへの回答

TeXを自分のPCにインストールしようとしてもできません。何回かアンインストールをして試しましたが、原因もつかめないままです。ウイルスソフトが原因かとも考えましたが、結局どうすればいいのかわかっていません。

Slackで詳しいことを送ってくればTA共々お手伝いします

一般的に、何かを評価させるときに、その評価の逆評価も行うと告知しておいたほうが評価の質は上がるものなのではないでしょうか。一方的な中傷に対する抑止力にはなるのかなと思いました。

今回逆評価を行うことを予告していたのは、その方が真剣に批評を書いてくれる人が増えるかなと期待したからですが、科学的な根拠はありません。心理学ではそういった実験があるかも知れませんね

# 質問などへの回答

夏の間Pythonの学習をしたいんですが、お勧めの本はありますか。  
プログラミング初心者です

読んでないまますすめますが「[Pythonによるプログラミング入門](#)」(森畑著、東大出版会)は丁度よいレベルではないかと思えます  
(ただしPythonを学ぶというよりは、プログラミングを学ぶ教科書で、たまたまPythonを使っているという感じですが)